

厚生労働科学研究費補助金（移植医療基盤整備研究事業）
平成29年度～令和元年度 総合研究報告書
分担研究報告書

院内での普及啓発活動のあり方に関する研究

研究分担者 柴田 尚明 和歌山県立医科大学救急集中治療医学講座 助教

研究要旨：

院内で臓器移植を普及啓発するためには、院内ドナーコーディネーター(院内ドナーCo)が重要な役割を担うと考えられる。しかし、その院内ドナーCoは多くの問題を抱えていることが想定される。また、本邦の臓器提供施設である5類型施設それぞれにも、移植医療を行うにあたって、様々な問題点が存在すると考えられる。これらの問題を解決することが院内での普及啓発活動のためには必要不可欠と考えられる。そのため、本邦の各施設の問題点および院内ドナーCoの問題点を抽出し、その問題点を解決するために必要なことを考察することが本研究の目的である。

A. 研究目的

本邦の臓器提供施設である5類型施設およびそれぞれの院内ドナーCoが抱える問題点を抽出すること。また、それらの問題点を解決するために必要なことを検討することが本研究目的である。

B. 研究方法

平成29年度は、国内外の移植に関する文献調査を行い、これまでに述べられている移植における問題点を把握。

平成30年度は、その文献的な問題点に加えて、院内ドナーCoの比較的多い当施設の院内ドナーCoで考えた本邦における臓器提供施設および院内ドナーCoの問題点を基に、アンケートを作成(5類型施設対象アンケートと院内ドナーCo対象アンケート)し、5類型施設へ調査を行った。

令和元年は、そのアンケート調査を集計し、結果を当施設の院内ドナーCoで検討し、本邦における臓器提供施設および院内ドナーCoが直面している問題点を抽出。その問題点を解決するための対策を検討。

(倫理面への配慮)

アンケートは匿名化しており、無記名調査としている。また、倫理的配慮に関してはアンケート依頼書に明記させていただいた。

C. 研究結果

平成29年度の文献検索の結果、国内外で院内

ドナーCoが臓器移植に重要な役割を担っており、充実した院内ドナーCo養成研修が臓器移植に大きく影響していた。また、養成研修の内容は、「脳死について」「ドナーCoの役割」「ドナー家族との会話」「ドナー患者への医療」「移植臓器の割り当て」「移植臓器の生着」「臓器移植に関わる経済学」など移植医療にかかわる一連の各項目に至っていた。これらの各項目に対し、座学やケースシナリオを用いたロールプレイやシミュレーションを行うことにより、臓器移植増加や院内ドナーCoの知識および技術向上に役立っていると報告されていた。

平成30年度は、臓器移植に関する勉強会などに参加し、各施設が抱えている問題点を把握するとともに、和歌山県の院内ドナーCoと繰り返し話し合いを行い、院内ドナーCoが抱える問題点を検討。それを基にアンケートを作成、5類型施設へ郵送、回収した。

施設対象および院内ドナーCo対象のアンケートの回答率はそれぞれ28%(262/933)、22%(408/1866)であった。

まず、「施設対象のアンケート」では、脳死下/心停止下いずれにおいても、年間臓器移植件数が0件という施設がそれぞれ183/262施設(70%)、177/262施設(68%)と非常に多かった。また、院内ドナーCoが存在する施設は多い(220/262施設(84%))が、Co人数が5人以下の施設が150/220施設(68%)も認められた。さらに、院内ドナーCoの養成研修が存在する施設は83/262施設(32%)と少なかった。

次に、「院内ドナーCo対象のアンケート」では、これまでに直接移植に関わったことがある院内ドナーCoは235/408人(58%)であり、この直接移植に関わったことのある院内ドナーCoの中で、これまでに移植で困ったことがあった人は、190/235人(81%)に至った。困った内容としては「ドナー家族の心のケア」が最多(96/190人(51%))であった。

一方、一般市民への勉強会などを行っている施設は37/262施設(14%)と非常に少ないが、院内勉強会や院内シミュレーションを行っている施設は、122/262施設(47%)、129/262施設(49%)と、約半数認められた。

さらに、375/408人(92%)の院内ドナーCoが「移植医療は終末期医療の一選択肢としてなり得る」と考えているが、265/408人(65%)が「終末期の説明および終末期医療の選択肢提示の仕方」を移植医療の弊害とも考えていた。その他にも、「院内ドナーCoとしての経験不足」「医療者の終末期医療に対する知識不足」「自施設のスタッフ不足」を移植医療の弊害と考えている人もそれぞれ195/408人(48%)、194/408人(48%)、191/408人(47%)と約半数認められた。

D. 考察

以上のアンケート結果から、本邦における移植医療の問題点としては、以下の4点が考えられる。

- ①院内勉強会やシミュレーションを行ってはいるが、医療者の移植医療をはじめとした終末期医療に対する知識・認識がまだまだ不足している。
- ②ドナー家族の心情を考慮することにより、適切な終末期の説明および終末期医療の選択肢提示が行えていない可能性がある。
- ③施設内の院内ドナーCoをはじめとした移植医療を支えるマンパワーが不足している。
- ④臓器移植が1年間を通して0件という施設が多いため、多くの施設にて院内ドナーCoとしての経験が不足している。

E. 結論

これらの問題点を解決するためには、まずは院内ドナーCoの知識および人数の充足が必須と考えられる。院内ドナーCoの養成研修を行っている施設

が少ないので、過去の文献でも院内ドナーCo養成研修の効果が述べられているように、院内ドナーCo養成研修を行うことが1つの解決策になると考えられる。また、養成研修の内容は、移植医療に関わる一連の各項目に関する詳細な座学やシミュレーションを取り入れた充実したプログラムにすることが重要と考える。また、養成研修プログラム修了し、院内ドナーCoに就任した後も定期的な継続研修プログラムを行うことで、経験不足の補填ができ、ドナー家族の心のケアや終末期医療の選択肢提示におけるドナー家族への接し方もよりよく改善されていくと考えられる。

F. 研究発表

1. 論文発表

本研究をはじめとした臓器移植に関する論文発表は現時点では行えていないが、今後行う予定である。

2. 学会発表

本研究をはじめとした臓器移植に関する学会発表は現時点では行えていないが、今後行う予定である。

G. 知的所有権の取得状況

1. 特許取得

特になし。

2. 実用新案登録

特になし。

3. その他

特になし。